

小学校 第4学年	題材名	曲想にふさわしい表げんを工夫しよう	時間	6時間
-------------	-----	-------------------	----	-----

■題材の目標

旋律の特徴を感じ取り、その特徴に合った演奏の技能を身に付け、曲想にふさわしい表現を工夫しながら思いや意図をもって演奏する。

■学習指導要領との関連

- A 表現 (2) 器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
- イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。
- (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
- (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
- ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
- (ア) 節奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能
- (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
- (ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

【共通事項】音色、リズム、速度、旋律、強弱、フレーズ、拍／反復、変化

■ヤマハデジタル音楽教材「ソプラノリコーダー授業」を使用した指導計画（6時間）

次数	時数	○学習内容・主な学習活動	教材曲	楽曲の使用音	使用するデジタル教材
第一次	第一時	○ソプラノリコーダーの復習をする。 ・3年生で学習した運指と姿勢、息のつかい方、タンギングなど各ポイントを復習する。 ・3年生で学習した楽曲「茶つみ」を演奏する。 ○旋律の特徴を生かすため、いろいろなふき方を学ぶ。 ・節奏を聴き、タンギングの工夫による楽曲イメージの変化を感じ取らせる。 ・タブレット端末を使って、グループごとに「せいじゃの行進」を練習する。 ・タンギングを工夫して「せいじゃの行進」を全員又はグループごとに演奏する。	「茶つみ」 「せいじゃの行進」	—	【プレイ】 ・「茶つみ」 ・「せいじゃの行進」 【まなぶ】 ・すわってえんそうする時のしせい ・息のつかい方 ・タンギング ・いろいろなふき方
第二次	第二時	○「ミ」の音でサミングを学ぶ。 ・サミングの方法を覚え、「ミ」の運指を学ぶ。 ・高い音を演奏するときの息のつかい方やタンギングを学ぶ。 ・タブレット端末を使ってグループごとに「ミのファンファーレ」を練習する。 ・サミングを意識して「ミのファンファーレ」を全員で演奏する。	「ミのファンファーレ」	ミ・ミ	【プレイ】 ・「ミのファンファーレ」 【まなぶ】 ・高い音とひくい音の出し方
	第三時	○「ファ」「ソ」を学ぶ。 ・高い「ファ」「ソ」の運指を学ぶ。 ・タブレット端末を使ってグループごとに「ヨーロッパのおしろ」を練習する。 ・息のつかい方やタンギングに気を付けて「ヨーロッパのおしろ」を全員で演奏する。	「ヨーロッパのおしろ」	ミ・ファ・ソ	【プレイ】 ・「ヨーロッパのおしろ」 【まなぶ】 ・高い音とひくい音の出し方

第二次	第四時	<p>○「ド・レ・ミ・ファ・ソ」を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽曲のイメージをクラス全体で共有する。 ・児童が演奏したい楽曲を選択し、楽曲ごとに設置されたタブレット端末を使って練習する。 ・選択した楽曲ごとに斉奏し、演奏を聴き合う。 	<p>「放課後の教室」 ・ 「お人形のゆめ」</p>	<p>ド・レ・ ミ・ファ・ソ</p>	<p>【プレイ】 ・「放課後の教室」 ・「お人形のゆめ」</p>
第三次	第五時	<p>○発表会用の楽曲「ミッキーマウス・マーチ」又は「茶色の小びん」を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ミッキーマウス・マーチ」「茶色の小びん」の節奏を聴き、発表曲をグループごとに決める。 ・グループごとに「どうやって演奏したいか」話し合う。 ・タブレット端末を使ってグループごとに選択した楽曲を練習する。 	<p>「ミッキーマウス・ マーチ」 ・ 「茶色の小びん」</p>	<p>—</p>	<p>【プレイ】 ・「ミッキーマウス・ マーチ」 ・「茶色の小びん」</p>
	第六時	<p>○「ミッキーマウス・マーチ」又は「茶色の小びん」を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使ってグループごとに仕上げの練習をする。 ・グループごとに成果発表をする。 ・選択した楽曲ごとに斉奏をする。 	<p>「茶色の小びん」</p>	<p>—</p>	<p>【プレイ】 ・「ミッキーマウス・ マーチ」 ・「茶色の小びん」</p>

【授業の展開例】 第一時

教材名	「せいじゃの行進」(アメリカ民謡)
------------	--------------------------

- ・教材観：ジャズのスタンダードナンバーとして親しまれている楽曲。スタッカートやレガートなど、アーティキュレーションを工夫して演奏するのに適した教材である。
- ・本時のめあて：せんりつの特ちょうを生かして「せいじゃの行進」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分 導入 15分 展開 25分 まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■単元のめあてを確認する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ■デジタル教材を使って3年生で学んだソプラノリコーダーについて復習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏するときの姿勢、息のつかい方、タンギング ・3年生に学んだ運指 ■3年生の振り返りとして「茶つみ」を全員で演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「まなぶ」の中から適宜選んで再生 ・プレイ - 「茶つみ」 	<ul style="list-style-type: none"> ★教師用 PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示
	<ul style="list-style-type: none"> ■デジタル教材でいろいろなふき方を学ぶ。 ■デジタル教材の視聴後は、まとめ画像を使ってタンギングの工夫で曲の印象が変わることをおさらいする。 ■「せいじゃの行進」の範奏をデジタル教材で視聴する。 ■グループ(3~4人)に分かれて、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。 ※初回はデジタル教材の使い方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなぶ - いろいろなふき方 ・まなぶ - いろいろなふき方 ⇒まとめを提示 ・プレイ - 「せいじゃの行進」 ⇒お手本の画面 ・プレイ - 「せいじゃの行進」 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■全員で「せいじゃの行進」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「せいじゃの行進」 ⇒楽譜の画面 	

【授業の展開例】 第二時

教材名	「ミのファンファーレ」(作曲：栗原正己)
-----	----------------------

- ・教材観：「ミ」と「ミ̄」の2音のみで演奏できる楽曲。サミングの方法と高い音や低い音の出し方を無理なく習得できる教材である。
- ・本時のめあて：サミングを使って、「ミ̄」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■前時の復習として、「せいじゃの行進」を全員で演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「せいじゃの行進」 ⇒楽譜の画面 	★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ■デジタル教材でサミングを学ぶ。 ■デジタル教材の視聴後はまとめ画像を使ってポイントをおさらいし、裏あなの隙間を親指でスムーズに調節できるように、リコーダーで「ミ」⇔「ミ̄」の練習をする。 ■デジタル教材で高い音と低い音の息のつかい方を学ぶ。 ■「ミのファンファーレ」の範奏をデジタル教材で視聴する。 ■グループに分かれて、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「ミのファンファーレ」 ⇒解説の画面 ・プレイ - 「ミのファンファーレ」 ⇒解説の画面のまとめを提示 ・まなぶ - 高い音とひくい音の出し方 ・プレイ - 「ミのファンファーレ」 ⇒お手本の画面 ・プレイ - 「ミのファンファーレ」 	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■全員で「ミのファンファーレ」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「ミのファンファーレ」 ⇒楽譜の画面 	

【授業の展開例】 第三時

教材名	「ヨーロッパのおしろ」(作曲: 永田平八)
-----	-----------------------

- ・教材観: 「ミ」「ファ」「ソ」の3音で演奏できる楽曲。高音で構成された楽曲で、高い音の息のつかい方やタンギングの習熟に最適な教材である。
- ・本時のめあて: 高い音の息のつかい方や音色に気をつけながら「ファ」「ソ」を練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分	導入 10分 ■前時の復習として、「ミのファンファーレ」を全員で演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認する。	・プレイ - 「ミのファンファーレ」 ⇒楽譜の画面	★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
	展開 25分 ■デジタル教材で「ファ」「ソ」の運指を学ぶ。 ■デジタル教材の視聴後はまとめ画像を使ってポイントをおさらいし、リコーダーで「ミ」「ファ」「ソ」の練習をする。 ■デジタル教材で高い音の息のつかい方を復習する。 ■「ヨーロッパのおしろ」の範奏をデジタル教材で視聴する。 ■グループに分かれて、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。	・プレイ - 「ヨーロッパのおしろ」 ⇒解説の画面 ・プレイ - 「ヨーロッパのおしろ」 ⇒解説の画面のまとめを提示 ・まなぶ - 高い音とひくい音の出し方 ・プレイ - 「ヨーロッパのおしろ」 ⇒お手本の画面 ・プレイ - 「ヨーロッパのおしろ」	★バロック式のリコーダーで学習している場合には、「設定」ボタンから「リコーダーの種類」を「バロック式」に設定する。
	まとめ 10分 ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■全員で「ヨーロッパのおしろ」を演奏する。	・プレイ - 「ヨーロッパのおしろ」 ⇒楽譜の画面	

【授業の展開例】 第四時

教材名	「放課後の教室」(作曲：関島岳郎) / お人形のゆめ (作曲：永田平八)
-----	--------------------------------------

- ・教材観：「ド」「レ」「ミ」「ファ」「ソ」の5音を使うため難易度はやや高いが、ゆったりとしたテンポと美しい旋律により子どもたちも安心した気持ちで取り組める。「放課後の教室」は伴奏や旋律から少しさみしげな曲想を味わうのに適した楽曲。「お人形のゆめ」はキラキラした伴奏が魅力的な楽曲である。
- ・本時のめあて：曲の様子を思いうかべながらえんそうしよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
45分	導入 15分 ■前時の復習として、「ヨーロッパのおしろ」を全員で演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ■「放課後の教室」「お人形のゆめ」のデジタル教材を視聴し、2曲のうち1曲を各自で選択して練習することを指示する。	・プレイ - 「ヨーロッパのおしろ」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ - 「放課後の教室」 ⇒解説の画面 ⇒お手本の画面 ・プレイ - 「お人形のゆめ」 ⇒解説の画面 ⇒お手本の画面	★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
	展開 20分 ■デジタル教材の視聴後は各楽曲のイメージについて児童に問いかけ、イメージをクラス全体で共有する。 ■曲別、テンポ別にタブレット端末を配置し、各自が自分に合ったタブレット端末の前で練習することを説明する。 ■各自、習熟度に合わせてタブレット端末間を移動し、練習する。 ※「レ」⇔「ミ」の運指が難しいため、部分練習をするとよい。	・プレイ - 「放課後の教室」 ・プレイ - 「お人形のゆめ」	★Shidousha_data.pdfのP.32 授業ポイントの①を参照。
	まとめ 10分 ■選択した楽曲ごとに演奏する。	・プレイ - 「放課後の教室」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ - 「お人形のゆめ」 ⇒楽譜の画面	

[授業の展開例] 第五時

教材名	「ミッキーマウス・マーチ」(作曲: ジミー・ドッド) / 「茶色の小びん」(作曲: ジョセフ・ウィナー)
-----	--

- ・教材観: だれもが耳にしたことがあるポピュラーな楽曲である。「ミッキーマウス・マーチ」は軽快な伴奏と旋律で、アーティキュレーションの工夫に取り組みやすい教材。「茶色の小びん」は弾んだ感じでリズムにのって演奏しやすい楽曲である。
- ・本時のめあて: 曲の持ちようを感じとり、えんそうの仕方を工夫してグループで練習しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■前時の復習として、「放課後の教室」と「お人形のゆめ」をそれぞれ演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ■デジタル教材でいろいろなふき方を復習する。 ■次回授業の活動内容(グループごとに演奏発表)をアナウンスする。 ■「ミッキーマウス・マーチ」「茶色の小びん」のデジタル教材を視聴する。2曲のうち1曲をグループで選択して練習することを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「放課後の教室」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ - 「お人形のゆめ」 ⇒楽譜の画面 ・まなぶ - いろいろなふき方 ・プレイ - 「ミッキーマウス・マーチ」 ⇒解説の画面 ⇒お手本の画面 ・プレイ - 「茶色の小びん」 ⇒解説の画面 ⇒お手本の画面 	★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ■グループごとにタブレット端末のデジタル教材を使いながら、以下の活動を実施するよう説明する。(グループはやりたい楽曲ごとに分けてもよい) ・演奏曲を決定する ・演奏する楽曲の曲想を感じ取り、特徴をまとめる ・どうやって演奏したいか、グループでまとめる ・グループ全員が演奏できるようになるために練習方法を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「ミッキーマウス・マーチ」 ・プレイ - 「茶色の小びん」 	★付属のワークシートを活用するとよい。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■選択した楽曲ごとに演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ - 「ミッキーマウス・マーチ」 ⇒楽譜の画面 ※テンポ 75%程度 ・プレイ - 「茶色の小びん」 ⇒楽譜の画面 ※テンポ 75%程度 	

【授業の展開例】 第六時

教材名	「ミッキー・マウス・マーチ」(作曲: ジミー・ドッド) / 「茶色の小びん」(作曲: ジョセフ・ウィナー)
-----	---

・本時のめあて: 曲の感じにあったふき方で発表しよう

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点	
45分	導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ■前時の復習として、「ミッキー・マウス・マーチ」と「茶色の小びん」をそれぞれ演奏する。 ■本時の学習のめあてを確認し、本時の授業の流れ(進行)もアナウンスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ-「ミッキー・マウス・マーチ」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ-「茶色の小びん」 ⇒楽譜の画面 	★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
	展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ■グループごとにタブレット端末のデジタル教材を使いながら、仕上げの練習をする。 ■各グループからタブレット端末を回収する。 ■グループごとに練習した楽曲を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表するグループは曲想を説明し、演奏する ・他のグループの演奏を聴き、ワークシートに感想を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ-「ミッキー・マウス・マーチ」 ・プレイ-「茶色の小びん」 	★発表時には、各グループから指定されたテンポに変更して伴奏を再生させるとよい。
	まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■選択した楽曲ごとに演奏する。 (「ミッキー・マウス・マーチ」を選択したグループ、「茶色の小びん」を選択したグループの2つに分かれて演奏する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイ-「ミッキー・マウス・マーチ」 ⇒楽譜の画面 ・プレイ-「茶色の小びん」 ⇒楽譜の画面 	